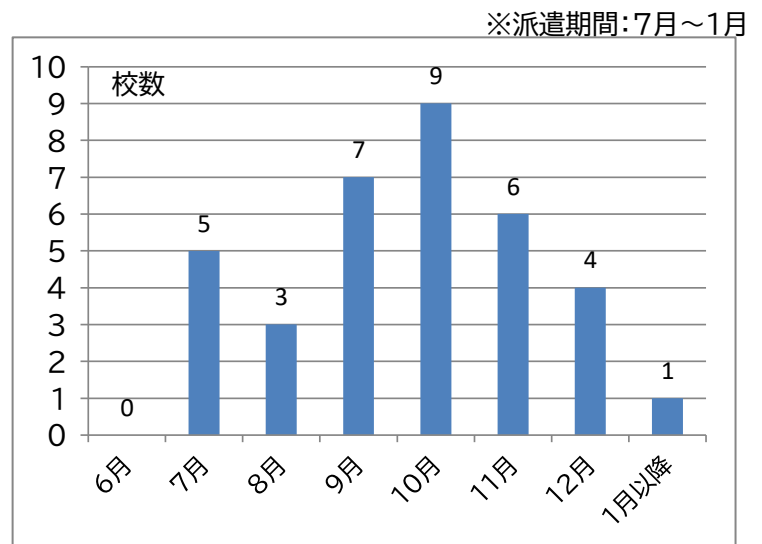
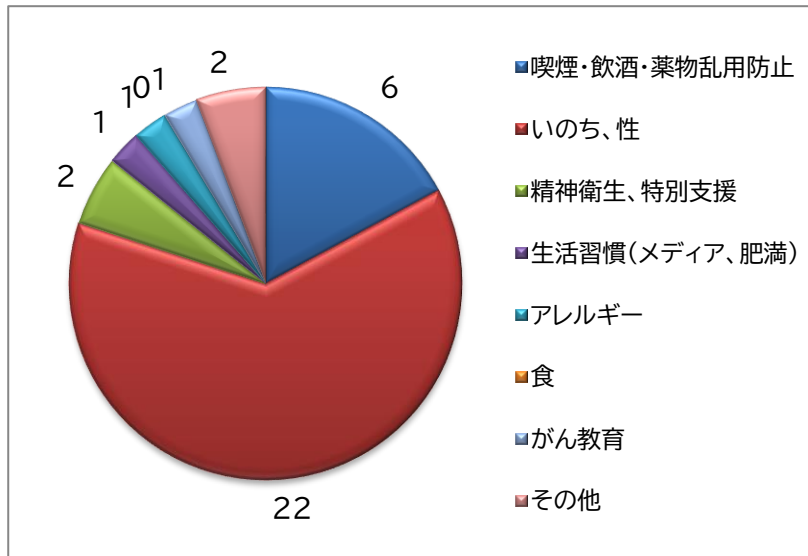


# 令和2年度 子どもの健康づくり連携事業 専門医の派遣（実践のまとめ）

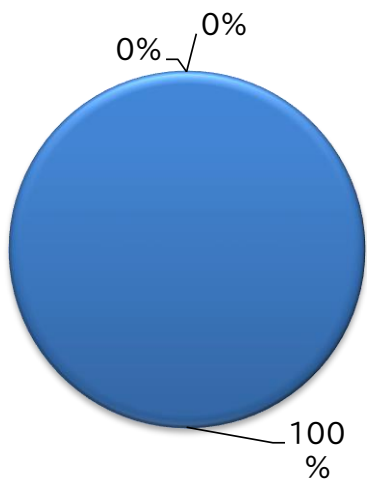


実施校	専門医の領域	内容	対象	感想
1	総合診療科	感染症予防	全児童 祖父母 保護者	○マスクをしても「密」はいけないと思った。手洗いがとても大切だとわかった。 ○「手洗い・うがい・マスク着用」、親子共々、声をかけ合いながらやっていたと思う。 ○大人にも子どもにもわかりやすい講演で、正しい知識を身につけることができた。
2	放射線科	喫煙防止	5年生	○禁煙をしなければならない理由がよくわかった。COPDという一生治らない病気があることを知った。 ○受動喫煙が重大な問題だとわかり驚いた。親がタバコを吸っているのをやめてもらい、「健康の道」に行かせてあげたい。
3	小児科	アレルギー対応	教職員	○アレルギー（アナフィラキシー）の危険性を改めて感じ、事故発生時対応のシミュレーションができるようになった。 ○実際にエピペンを使用して研修できたことで、万が一の際も慌てずに打てる気がする。
4	産婦人科	性・いのち	3年生	○正しい知識をしっかりと、詳しく教えてもらった。これからのことを考えると、正しい知識を持つことは、自分の身を守るためにも、相手のことも守るためにも、とても大事なことなのだ改めて思った。今日、学んだことを頭に入れ、性に向き合っていきたいと思う。
5	産婦人科	性・いのち	3年生	○自分たちが生まれてくるとき、お母さんが頑張るだけでなく、生まれてくる自分たちも頑張っていることを初めて知ることができてよかった。 ○異性のことについて知らなくていいと思わず、男女どちらも異性の心と体について理解しあうことが大切なのだ実感した。
6	緩和ケア科	がん教育	全校生	○もし親や友達ががんになってしまったときどうすればいいのかわかるようにしたい。大人になったら、定期的に病院の健康診断などに行くことを心がけたい。他人事ではないと思った。
7	精神科	ネットやゲームの使用問題を考える	1年生	○スマホやテレビのブルーライトが、自分の目にどれだけ影響するのか知ることができたので気を付けていきたい。勉強、睡眠が大切である高校生の今、スマホではなく、大切な時間に自分の時間を費やせるようにしたいと感じた。 ○不安を抱えている人もネット依存になりやすいと聞いて、周りの人に目を向けてお互いに依存症にならないような生活を送りたいと思った。 ○スマホなしでは生きられない時代だからこそ、自分を律して上手に付き合っていきたい。
8	産婦人科	性・いのち	2年生	○男性と女性の体や考え方の違いを知ることができた。他者を思いやる気持ちをもって生活していきたい。 ○周りに相談できる人がいる環境が大切だと思った。わからないとき、困ったときは勇気を出して相談したい。
9	歯科	摂食・嚥下について	教職員	○嚥下や安全に摂食指導するためのさまざまな視点を具体的に説明していただき勉強になった。 ○個別相談ができてよかった。早速、翌日から実践し良い変化があった。
10	産婦人科	性・いのち	学校医 保護者 教職員	○子どもが小さいうちに、様々なチャンスがあること、大人がしっかりと性を理解して楽しくモラルも含めて教える場面があることを知った。 ○嘘をつかない、はぐらかさない、一緒に調べるということを大切にしていきたい。変化に気づき、一緒に成長を支えていきたい。保護者と一緒に話を聞き、これから児童の成長について話しやすくなる機会となった。

## 令和2年度 子どもの健康づくり連携事業（専門医の派遣）報告書より

### 健康課題解決について

■有効 ■有効でない ■評価なし



○コロナ禍の影響でスマートフォンと関わる時間が長い状態で入学してきた学年で睡眠不足や集中力の低下等自覚症状のあるある生徒も多く、今後の生活習慣を見直すきっかけとなった。

○自分の選択の一つひとつが健康な未来につながる現実を意識させ、タバコの有害性よりも選択の大切さを教えている。タバコだけでなく、健康に関する知識全般を深めるため、専門家に学ぶ機会を多く作り、選択・継続に重点を置いて成長を支援している。講師の先生には、事前に児童の実態の把握や質問等を知らせ、子どもたちには授業後感想を書いてもらい、知識の定着具合や課題等を評価している。

○生徒の実態に合わせ、二次性徴のことを話していただき良かった。コロナ禍で不安を抱える生徒に対しての話もあり、救われたと感じる生徒もいたと思う。

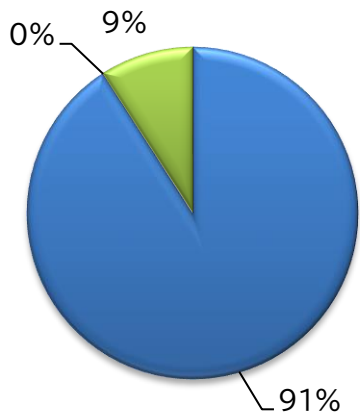
○本校生徒は、月経痛で悩んでいる生徒が多い。また、生きる上で、計画的な妊娠・出産は重要である。それに付随する問題もある。それらについて、生徒に合理的に考えさせることができた。

○異性に関心を持つ思春期に、専門医から男女の体と考え方の違いや神秘的な生命誕生、多様な性について教えていただくことで、お互いを尊重し合うかわり方を学び、さらに自己肯定感を高めることができた。

○体の発達、妊娠、出産、性被害等、性の知識・情報にとどまらず、性的マイノリティーや人への思いやりなどのお話をいただき、「いのち」について心に響く内容であった。コロナ禍の話題もタイムリーだった。

### 校内の組織づくりについて

■有効 ■有効でない ■評価なし



○学年の生徒全体で問題を共有し、生活習慣改善への意識づくりができた。孤立が依存を進めることを学び、他者との関わり的重要性を認識したことで、今後の学校生活においても協力できる体制が作られたのではないかと。

○講師との連絡調整は養護教諭、準備・運営は保健安全指導部を中心に学年の先生と連携して行うことができた。

○今回は、オンラインでの実施だった。ICTを用いた教育は、教員一人ではしうるものではなく、教員集団として指導に当たる必要がある。生徒の健康面についても、教員内で情報を共有でき、今後の指導に活かせると思った。

○教員が、今後の指導において同じ方向の意識を持つことができた。今後、組織として、性に関する指導を推進しやすくなった。

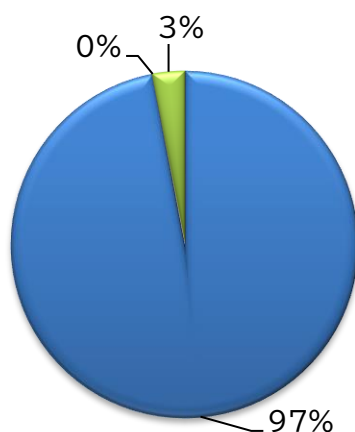
○いのちの学習年間計画にある喫煙防止教室を計画通り実施し、児童の意識が高まったことにより、来年度に向けての具体的な見通しを持つことができた。

○管理職、学年団との連携、協力体制がしっかりとれた。

○職員の問題意識の共有化が図られた。

### 校外の関係機関との連携

■有効 ■有効でない ■評価なし



○当病院には今までも講師派遣でお世話になっているが、ストレスが増し、心に問題を抱える生徒も増加傾向にあり、今後も地域にある専門医療施設と連携を密にしていきたい。

○快くお引き受けいただき、学年の実態や保健体育の既習事項も踏まえ、要望した内容を盛り込んでお話いただいた。

○生徒は、女性医師・男性医師の両者から、本音の話を聞くことができ、専門医を身近な存在として感じる事ができた。引き続き気軽に相談できるよう、専門医には連携をお願いしたい。

○専門医とつながりを持つことができ、事前・事後の学習や、生徒への対応などについて、今後も相談できる関係を築くことができた。

○法律を含めた最新の情報を数多く教えていただいた。健康づくりについて楽しく学ぶことができるための方法等を教えていただいた。

○講師の先生とは、メールで調整できた。教育委員会との連携がうまくとれた。

○何かあった場合、「顔の見える連携」として専門家に相談できる。

○実際に病院でCTによる肺がん等の診察をしている医師が来校しての指導は、リアルで最新の医学知識に基づいており、専門的な知識や写真は、非常に説得力があった。将来、自分が直面するかもしれない問題としてとらえ、喫煙防止等に大きな学習成果を上げている。